

教員採用試験突破

本郷で学んだ二人「教職の道」を語る

2011年3月に外国語学部を卒業した古川美希さんが現在、埼玉の中学校で頑張っています。さらに、大学院外国語学研究科2年の柴雪乃さんが、私学教員に採用されました。

安心して生徒を任せてもらえる教員に

現在、埼玉県志木市立宗岡中学校で英語科教員として奮闘中の古川さん。1年生担当のため、自分と同じ時期に入学した生徒たちに親近感を感じています。何よりも英語を学びたかった古川さんは、英語の授業が充実し、ネイティブスピーカーの指導が受けられる本学に進学を決めました。在学中は、勉強と吹奏楽部を両立させるために時間との闘いの日々でした。



古川美希さん(2011年3月外国語学部卒業)

古川さんは「文京学院の英語は、話す・聞く・書くの力がつく」と実感しています。海外留学の経験はありませんが、軽井沢セミナーハウスでネイティブスピーカーと2週間、英語だけで過ごす国内留学プログラムに参加して、さらに英語力を磨きました。「生徒だけではなく、学校に関わる全ての人に安心して子どもを任せてもらえ、教員になりたい」と考え、日々研鑽を積んでいます。

渡邊教授との巡り会いで大学院へ進学

柴さんは「人とコミュニケーションを取ること」に興味があり、「それを英語で表現したい」という希望を持っていました。本学の



柴雪乃さん(外国語学研究科2年)

オープンキャンパスに参加した際、校舎の清潔さと英語を学ぶ環境が整備されている点に惹かれ、「入学したい」と思いました。「教えること」にも興味を持っていました。柴さんはこのインタビューの翌日、単独で初めての英国旅行に出発し、学びの成果を発揮。今後、その体験を生かして高校生と向き合っていきます。

柴さんもまた留学経験はありませんが、本学が推奨する英語教材「三ラウンド・システム」で徹底的に学び、英語をマスター。TOEICも100点以上アッパシしました。6年間の総括として、柴さんはこのインタビューの翌日、単独で初めての英国旅行に出発し、学びの成果を発揮。今後、その体験を生かして高校生と向き合っていきます。